

著南江水鈴

1925  
9

解圖

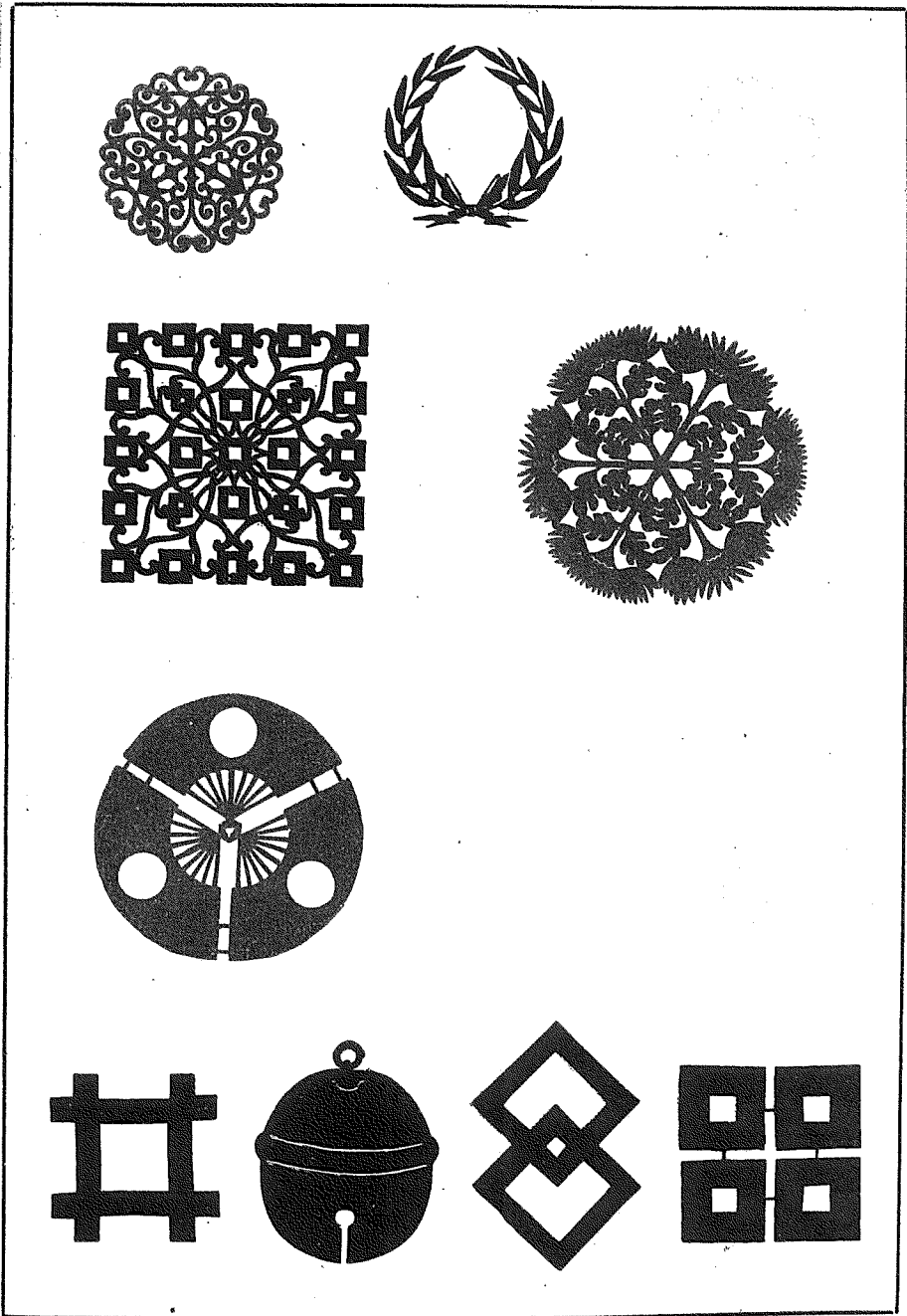
キリヌキ十二月

中研院台史所總督府圖書



3 0600 0 3282462 6

行發舎辰壬



# 序

玩具といふものも澤山ある。遊戯といふものも澤山ある。教育的なもの、娯樂的のもの、體育的のものなど、いろいろあるけれど實際に自分の力で造り出したといふ喜びを兒童の心に與へるものは割合に尠い。これは考へなければならぬ事である。人間の幸福や喜びは、たゞ自分の力、自分の思慮によつて作られるものであると言ふ考を兒童の心に與へる方法として、多くの玩具や遊戯の性質は、果して遺憾のないものであると言へるであらうか。

眞の快樂を得るには、辛抱強くそして周到な用意をせねばならぬ。一つのものを作り上げるといふ樂しさは、その樂しさの外に、尙一

層大きな教訓を人の心に與へる。さういふ意味で、鈴木江南君の「家庭参考用書」は家庭に於ける兒童にとつて、見遁がすべからざる利益と教訓と快樂とを贈るものである。

獨利益と教訓と快樂とばかりではない。學校の教科たる手工に伴つて、娛樂の中に普通教育の主旨を巧みに善用した點は、娛樂によつて、外部から學校の教科を助ける、貴重な知識上の贈物である。自分は此書を、全く無界限に、永久にそして何人の前にも推奨して憚らない。乞はるゝまゝに、之れを序とした。

大正四年四月十二日

秋 山 眞 澄

は し ぢ ん

皆さん、此の書物は皆さんが勉強の餘暇の御慰みかたゝ、手工科の御参考に供したいといふ考へで作りました。此の本では綺麗で高尚でそして爲めになるキリヌキ十二月を御紹介致します。此書物には、一月から十二月まで、各其の月に因んだ、切抜細工ばかりを集め、是に一一説明を加へて置きましたから、内容を御覽になれば、圖に示した模様や紋形は、どれでも皆容易く切抜く事が出来ます。

又、此本に載せてない奇抜な模様や、面白い紋形などは、別に、キリヌキ花の巻、月の巻、雪の巻、及びキリヌキザイク等に澤山掲げて置きましたから、どうぞ此書物と併せて御覽を願ひます。

備て左に切抜方或は紙の折方等に就て御注意申上げて置きます。  
 ○用紙は何でもよいのですが正方形の伊豫杵模造色紙が一番使ひようございます。

○紙は必ず表を中に裏を外にして折つて下さい。

○折目は一々爪の甲で軽く擦つて歪みの無いやうに正しく隅々がキチンと合ふ様に注意して下さい。

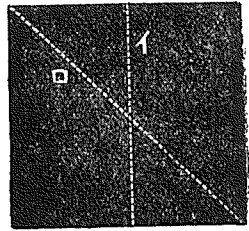
○下繪の輪廓は鉛筆でなるべく淡く畫くに限りません。

○缺で切抜きにくい部分は尖端の薄い小刀をお用ひになるがよろしい。

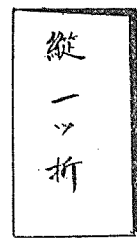
○出来上つた形はたとへ下手に出来たのでも必ず厚紙へ貼つて保存し決して反古にしてはなりません。

次に折方に就て申上ります。

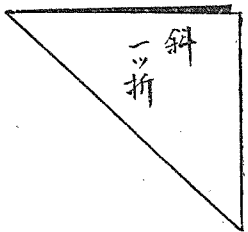
一ツ折 折方 順序 第一圖



第二圖



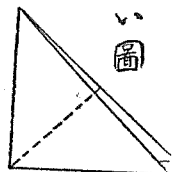
第三圖



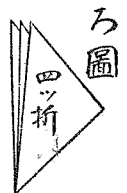
三ツ折 折方順序

○五つ折は斜一ツ折を甲圖の點線通りに折つて乙圖を作り又點線に従つて丙圖を作り是を點線通りに折れば丁圖即ち五つ折の出来上りとなります。

四折  
折方  
順序



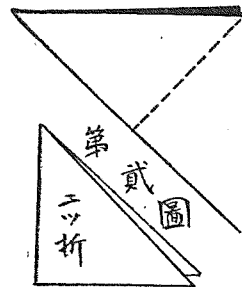
い圖



ろ圖

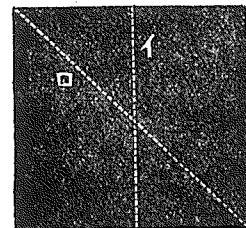
四折

二折  
折方  
順序  
圖壹第



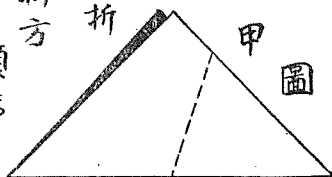
第貳圖  
ニツ折

一ツ折  
折方  
順序  
圖一第



第貳圖  
縦一ツ折

五折  
折方  
順序  
甲圖



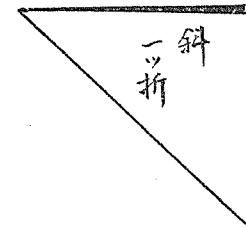
甲圖

三折  
折方  
順序



ア圖

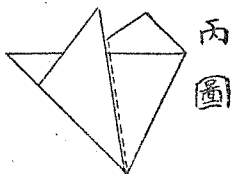
第參圖



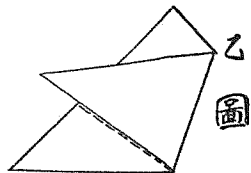
斜一ツ折



丁圖



丙圖



乙圖



イ圖

儲て左に切抜方或は紙の折方等に就て御注意申上げて置きます。  
 ○用紙は何でもよいのですが正方形の伊豫杵模造色紙が一番使ひようございます。



○一つ折は折方第一圖の點線イの所を折目として縦に折ると第二圖縦一つ折の出來上りとなります。又點線ロに依つて折れば第三圖斜一つ折が出來上ります。

○二つ折は斜一つ折を第一圖の點線の通りに折るのです。  
 ○三つ折は斜一つ折をア圖の點線通りに一方を裏へ他を表へ折れば出來上ります。

○四つ折は二つ折の出來上りを「イ圖の點線のやうに折ればよろしい。四つ折で切るものは二つ折でも切る事の出來る場合があります。

○五つ折は斜一つ折を甲圖の點線通りに折つて乙圖を作り又點線に従つて丙圖を作り是を點線通りに折れば丁圖即ち五つ折の出來上りとなります。

以上の中三つ折と五つ折とは目分量で折目を定めるのであります。勿論これを正しく折る方法もありますがそれでは却つてむつかしくもなり又總べて手工にも圖畫にも其他の事にも目分量を用ふる場合はたくさんありますからその練習として矢張り目分量をする事に慣れなければなりません。で故意と目分量の方を遣つて置きました。

鈴木江南

解圖  
キリ又キ十二ヶ月目次

その一 睦月

年のはじめ

お正月の子守唄——松飾とお雑煮——お正月の遊戯——松竹模様  
お供餅——獨樂——羽根と羽子板

その二 如月

日露戦争

仁川沖の大海戦——旅順口の閉塞——決死隊——廣瀬中佐——三つ砲彈——錨——四つ錨——軍艦——小銃と軍帽

その三 彌生

春の野山

梅と櫻——紅梅燒——環つなぎ梅——櫻の花のうらおもて——八

重櫻——櫻草——蒲公英——長閑な春の野

その四 卯 月

春のつかひ

蝶はひらく——春をもつて来る燕——揚羽蝶——もんしろ蝶  
蛾——蝶と蛾のちがひ——雁の列——軒端の燕——飛ぶ燕

その五 阜 月

菖蒲太刀

その六 水 無 月

柏餅——ゑらい人——定紋のさまさま——明智光秀——渡邊の綱  
源頼光四天王——武田信玄——西郷隆盛——牛若丸——徳川家康

青葉若葉

鯉と錦魚とオタマジャクシ——團扇や扇子——蜻蛉車——蛙のダ  
ンス——團扇車——扇車——那須與一——軍扇

その七 文 月

たなばた祭

織女星——七夕踊——星形——日本陸軍の徽章——晴明桔梗  
九紋笹——網目——網目の切りかた

その八 葉 月

夏やすみ

海水浴——温泉——採集——釣船——蛸——氷水——薬罐——電  
車——渡船

その九 長 月

菊の花壇

皇室の御紋章——楠正成の菊水——四君子——たべられる菊  
除虫菊——菊の異名——菊作りの太刀——菊一文字の刀——菊花  
大綬章——菊菱——影菊菱



その十 神無月

秋の木の葉

遠足と運動會——山遊び——紅葉と银杏——三つ楓——五つ楓——  
紅葉狩——楓の名所——三つ银杏——別當公曉——柿

その十一 霜月

七五三の祝

氏神様へお詣り——新嘗祭——鳥居——右三つ巴左三つ巴——巴  
のいはれ——日章旗——鈴

その十二 師走

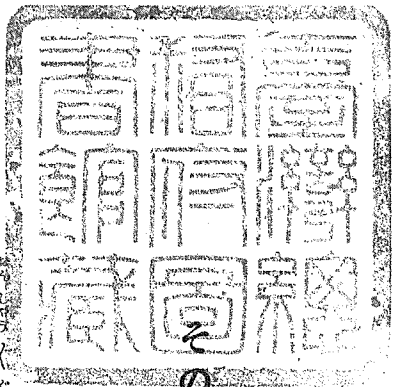
初雪

北風——六つの花——雪輪ちがひ——雪積り笹——クリスマス——  
繋ぎ提灯——皆さんさらば

目次終

解圖 キリヌキ十二月

鈴木江南著

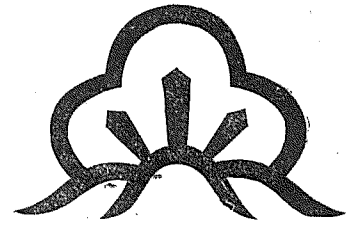


一睦月

年のはじめ

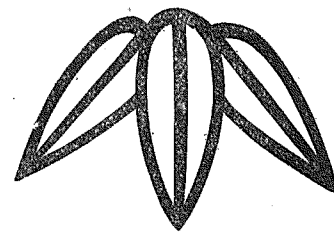
「御正月お正月、松立つて竹立つて、喜ぶ者はお子供衆嫌やがる  
者はお年寄、旦那の嫌は大晦日、一夜明ければ元日で、年始の御祝儀  
申しませう、お煙草盆お茶持つて来い」といふ毬唄があります。皆  
さんお正月といふ言葉は、まあ何といふ楽しい言葉でせう。  
お正月には、何處の家の門口にも、松竹や飾等が飾られます。そ

(松) 圖一第



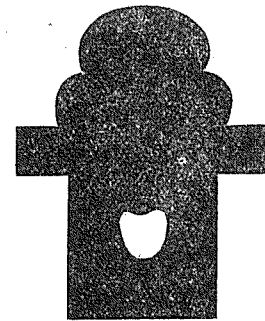
第一圖

(竹) 圖二第



第二圖

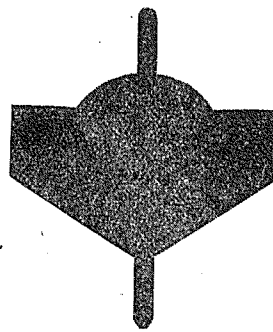
(餅供) 圖三第



空飛ぶ鳶も、  
駈けて行く犬も

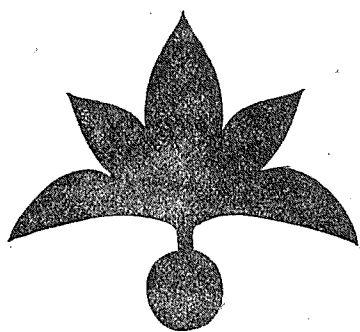
第三圖

(樂獨) 圖四第



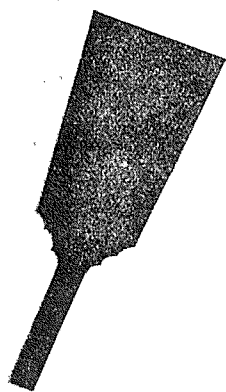
第四圖

(根羽) 圖五第



第五圖

(板子羽) 圖六第



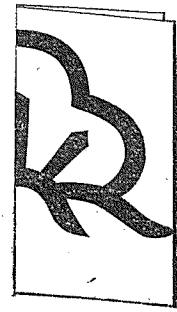
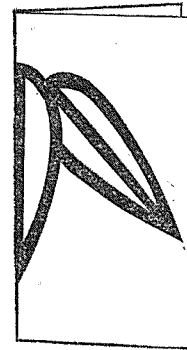
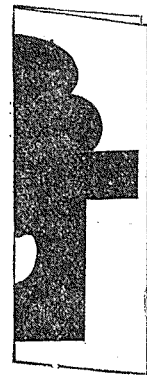
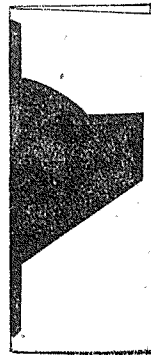
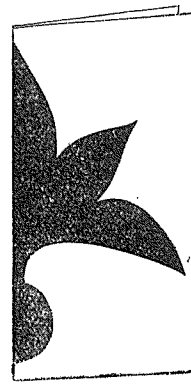
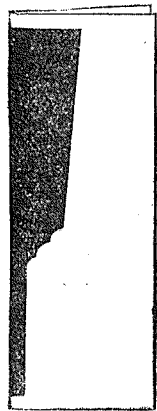
第六圖

して屠蘇、雜煮を戴いて年の  
始めの御祝儀を致します。

お父様もニコくならお母  
様もニコく、往來を歩いて

皆ニコくして居るやうで  
唯もう嬉しく楽しい時であ  
ります。さて、お正月には皆  
さんは何をして遊びますか。

紙鳶を上げるもよい  
でせう、羽根をつくも  
面白いでせう、或ひは  
歌留多や、壽語六もよ  
いでせう。しかし、私  
はさういふものより、  
も少し綺麗で高尚で  
しかも爲めになるキ  
リヌキの新しい遊び  
をお勧めしたいと思  
ふのです。で先お正  
月に因んだ物から順



々に、十二月までのキリ又キ遊びの雛形に就て、これからこまかく御紹介したいと思ひます。

偕て此處に御話するのは、皆お正月の物ばかりで、折方も亦一様に一つ折ばかりであります。此一つ折には縦一つ折斜一つ折の二種が御座いますが、圖には縦を掲げて置きました。どちらを用ひてもよいのであります。

最初第一圖の輪廓通り、鉛筆で淡く線を畫き、白い部分を、鋏で切り捨てますと、松の模様が出来ます。然し、これは、ちと松の葉らしくないと、思召す方があるかも知れませんが、是は昔から松模様と言つて傳はつてを、一つの紋型であります。

次に、第二圖を、前同様の方法で、切取りますと、竹の模様となります。細い部分ばかりでありますから、切り損なはぬ様に充分注意をして切らねばなりません。

また、三寶に載つた供餅は、第三圖のやうに切抜けばそれでよろしいのですが、上の餅が下の餅よりも大きくなならない様に氣を付けて下さい。

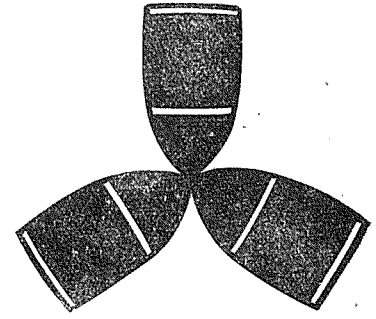
獨樂は上と下の眞棒の太さを同じに、そして曲らぬ様に第四圖の如く切抜けばよろしい。

第五圖を切取ると、羽根が出来上ります。是も玉が隋圓になつたり、ゆがんだりしてはいけません。又第六圖のやうに切取りますと、羽子板の形になります。

その二 如月

日露戦争

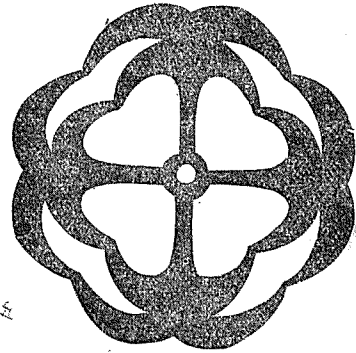
（彈砲ツ三）圖一第



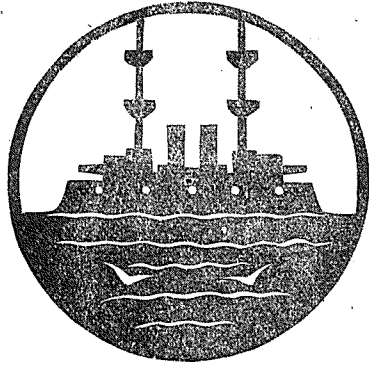
（錨）圖二第



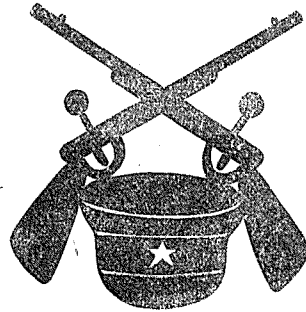
（錨ッ四）圖三第



（艦軍）圖四第



（船軍と銃）圖五第

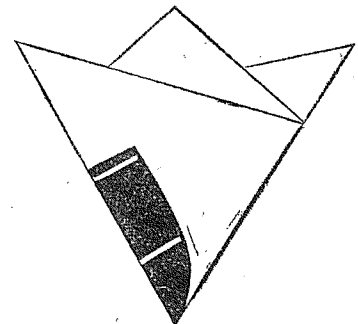


には、第二回の閉塞  
決死隊が募られた  
のであります。

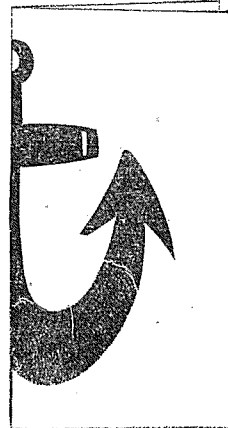
旅順口閉塞といふ  
聞くも勇ましい大  
和魂の大活動があ  
り、三月の二十一日

時は明治三十七年の  
二月のこと日本と露  
西亞との國の意見が  
うまく合はないとこ  
ろから、其月の六日に  
は終に二つの國の間  
の談判が破裂して同  
じ月の九日、仁川の沖  
合で日露の兩艦隊が  
初めて砲火を開きま  
した。越えて二月二  
十四日には、第一回の

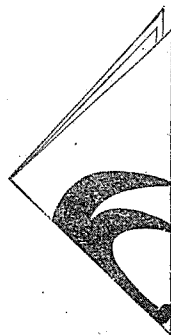
第一圖



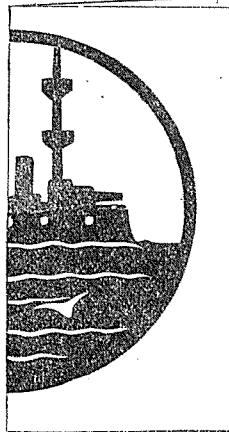
第二圖



第三圖



第四圖



第五圖



皆さんもよく御承知の軍神廣瀬中佐は、決死隊の指揮官として、この第二回目の閉塞の時に、名譽の戦死を遂げたのであります。

この日露戦争は明治三十七年の二月から始まつて、それから恰度二ケ年の間續きましたので、日露戦争といふ外に、また明治三十七八年の戦役とも申します。

そこで此戦争を記念するために、軍器の形を應用した紋形を御紹介致しませう。

偕て、最初の三つ砲彈は、三個の砲彈の尖つた方を合せて模様風にした新案の紋形であります。これは紙を三つ折とし、第一圖のやうに輪廓を畫いて、白いところを切り捨てさへすれば、よいのであります。

次は海軍を意味する錨の紋形であります。これは一つ折の紙を第二圖のやうに切取ればよろしい。

四つ錨は、昔からある紋で、四個のいかりを組合せて、一つの紋形としたものであります。四つ折の紙を第三圖の輪廓通りに切抜くと是が出来上ります。

また、紙を一つ折にして、第四圖の通りに切抜きますと、波に浮んだ軍艦の勇ましい姿が出来上ります。しかし是は切り方に細いところが澤山ありますから、油断をすると切損ひます。よく、注意に注意を加へてマストの屈がらぬやう、窓に大小の出来ない様、丁寧にお拵へなさい。

今度は紙の一つ折を第五圖の輪廓の通りに切取つて、ソツト開いてごらんなさい。さあ何が出来たでせう、言ふまでもなく、これは小銃と軍人の帽子とであります。

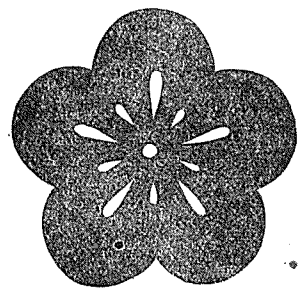
斯ういふ風に、どんなものでも模様風に考へさへすれば美事に切  
 抜く事が出来ますから、皆さんも一つもつと奇抜な新案模様を考  
 へて御覧なさい。

その三 彌生

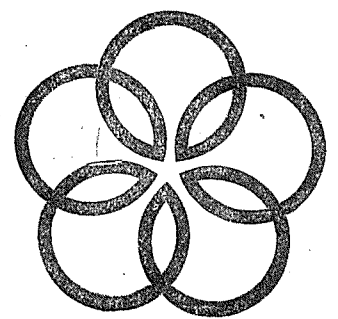
春の野山

二月は梅、三月は櫻といったのは、陰暦を用ひた昔の事で、太陽暦を  
 用ふる今日では、三月梅が開き、三月下旬から四月にかけて、やうや  
 う櫻の花が咲き初めます。  
 櫻が咲く時分になると、蒲公英や櫻草などが、野原だの丘の上だの  
 にボツ／＼と笑ひはじめてもう何處を見てもまるで美しい織物を  
 をしいたやうになります。

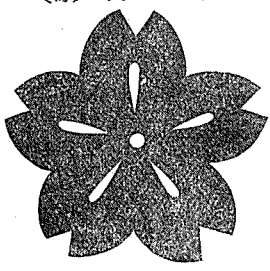
第一圖 (梅)



第二圖 (梅ぎなつ環)



第三圖 (梅)

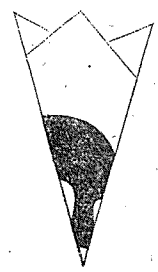


皆さんも自分の好きな色紙をつかつて、皆さんの机の上  
 にさまざまな花をつくりま  
 す。春の花は皆さんの机の上  
 にも咲くので

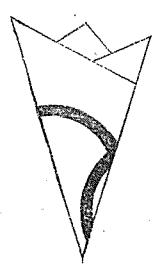
あります  
 偕て、紙を五つ  
 折として、第一

圖の通りに切取って御覧なさい。出来上つたものは言ふ  
 までもなく、梅の花を正面か  
 ら見た形です。淺草の觀音

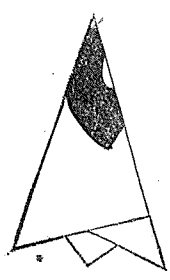
第一圖



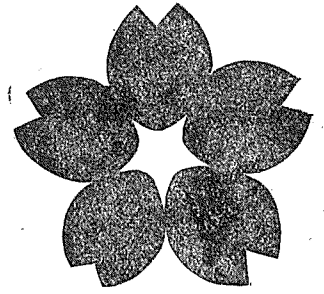
第二圖



第三圖



(梅 莖) 圖 四 第



様へ参りますと、仲見世のここ

ろにこれと同じやうな形の紅

梅焼の看板があります。多分

皆さんもよく御存知だらうと

思ひます。

環つなぎ梅といふのは、環を五個連続させて、梅

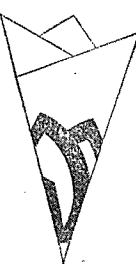
の花の形にしたものです。これは五つ折の紙

を第二圖のやうに切抜けば、それで出来上りま

す。細いところばかりが順々に繋がつてゐるので、

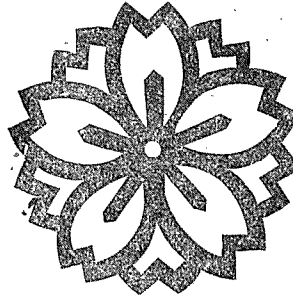
をはずさないやうに注意して

切り取らねばなりません。



第五圖

(櫻 重八影) 圖 五 第



次も前と同じ五つ折

です。それを第三圖

の通りに切抜いて御

覧なさい。すると櫻

の花を正面から見た紋形が出来上ります。

第四圖もやはり同じ折方で拵へます。これ

は櫻の花を裏の方から見た紋形であります。

表には、蓋があります。裏には萼があります。

紋形にも表と裏との區別

がついて居るのです。

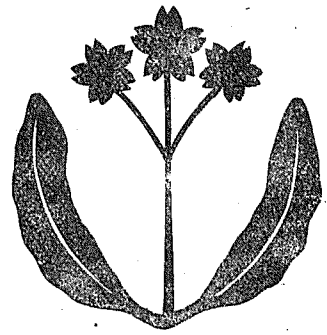
八重櫻は、前の一重櫻に

比べるともう一層手が込

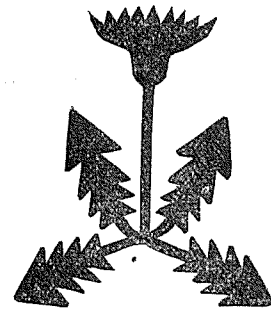


第七圖

(草 櫻) 圖 六 第



(英公蒲) 圖 七 第



んでゐますから、餘程注意をして切取らねばなりません。しかし切取る時、骨が折れる代りに、出来上つた形の美しさは一重櫻とは比べものになりません。五つ折の紙で、第五圖の通りに丁寧に切取つて御覽なさい。

櫻草は、花の形が櫻の花とよく似てゐる可愛らしい草花であります。是を拵へるには一つ折の紙を、第六圖の輪廓通りに切取ればよいのです。

また、一つ折の紙を、第七圖のやうに、切抜くと蒲公英の形が出来ます。うらくくと晴れた空の下の、長閑な春の野に、黄金色の花を開く、菊のやうな美しい草花です。

## その四 卯 月

### 春のつかひ

花は野山をいろどり蝶はひらくと嬉しさうに翅を翻へして花の間を舞ひあります。美しい春はまゐりました。

去年の秋に大勢のお友達と翅をそろへて来た雁は再び高い大空を仲好く飛んで歸りました。入り代つて燕が千里の遠い波の上を越えて暖かい春をもつて来ました。

蝶は美しい翅をもつて、可愛らしい形をして居ります。それで昔から種々の模様や、紋形等に用ゐられてゐます。その中でも揚羽の蝶は、形も大きく、色も非常に綺麗ですから、大層人々にもてはやされました。

そこで皆さんは紙を一つ折として、第一圖のやうに、輪廓を畫き、白



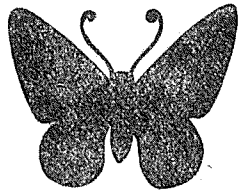
(蝶羽揚、圖一第)



い部分だけを切捨て、そしてしづかに開いてごらん下さい、おやおや、まあ何といふ可愛らしい蝶々でせう。

第二圖

(蝶ろしんも)圖二第

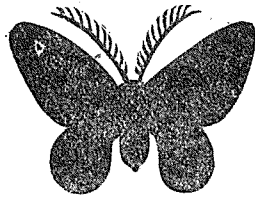


形であります。

第二圖もやはり一つ折の紙で切るのです。出来上るものは春の初

第三圖

(蛾)圖三第

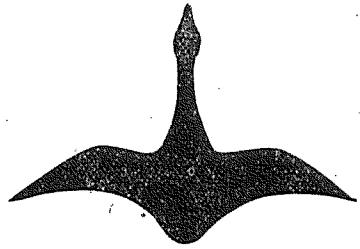


形であります。

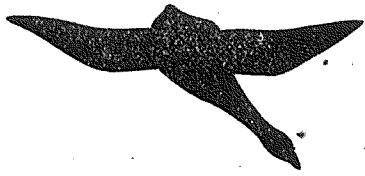
また前と同様な折紙で、第三圖のや



(雁)圖四第

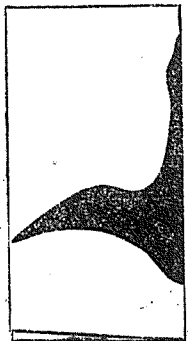


(甲)

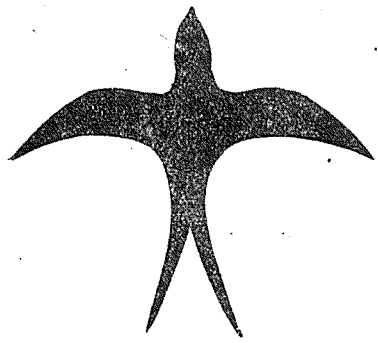


うに切抜き第四圖

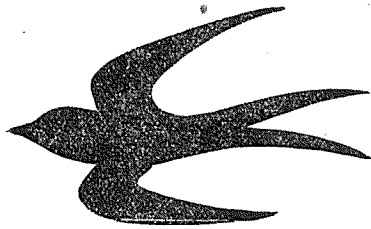
ますと蛾の形が出来上ります。



(燕)圖五第



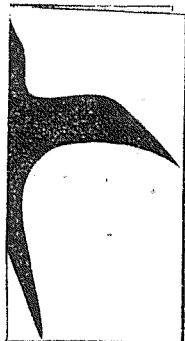
(乙)



一寸見たゞけでは、蝶と蛾との區別がつかないやうですが、餘程ちがつてをります。何處がちがふかと云のに蝶は晝間飛びまはつて

第五圖

花や葉に止まる時は、羽を疊みます



が、蛾は蝙蝠のやうに夜になつてから出るので止まる時にも羽を擴げたままでありませう。然しよく見ますと形も大さう違ひませう。蝶は毛のやうな觸角と、比較的細い體をもつてをりますが、蛾は羽毛のやうな觸角と、よく肥えた體をもつてをります。雁は北の方の寒い土地に産れる鳥で、毎年秋になりますと、行儀のよい列を造つて、飛んで来て、春になると再びもとの土地へ飛び歸ります。

雁は寒い氣候が好きで、そして水に近く棲みます。飛ぶことが上手でも足で歩く事は甚だ下手です。然し蹻の間にゴムのやうな膜があつて、泳ぐ事は非常に上手ですから、水を潜つて巧に小魚を捕つて、それを餌にします。

一つ折の紙を第四圖に依つて切れば、雁の飛んで居る形が出来ます。

燕は雁とは反對に、春來て人の家の軒端に巢を作り、卵を孵して秋になると又もとの土地へ歸る鳥であります。燕は暖かい氣候が好きで、飛ぶ事は非常に速く、しかも飛びながら小さい虫を捕へてたべます。

第五圖の通りに切抜くとその非常に早く飛んでゐる燕が出来ます。

甲と乙とは、紙を折らずに、此形を畫いて切取るのであります。

雁は首が長くて、尾がありません。燕は雁よりも首が短く、尾が二つにさけてをります。

是に依つて、甲乙のどちらが雁で、どちらが燕であるかは直にお解りになるであります。

菖蒲太刀

昔から五月五日は端午の節句と申しまして、何處の家でも、軒端に菖蒲の葉を挿み、柏餅を戴いて、お祝を致します。

殊に、男の子のある家では、鯉幟を立て、昔の英雄豪傑等の武者人形を飾つて、その子がゑらい人になるやうにといふので、お祝を致します。

日本歴史を見ますと、日本には偉い人が澤山あります。ゑらい人といふのは、第一に情深く、勇氣があつて、沈着して居て、辛抱強い人のことであります。かういふ人は何をしても出来ない事がないので、それで人々が「ゑらい人だ」といふのですからゑらい人と

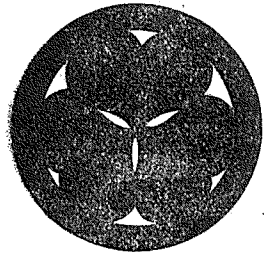
言はれやうと思つて「ゑらい人」になつたのではありませぬ。ゑらい人は誰が何と言はないでも本當にゑらい人なのです。

偕て、こゝには、最も多く世に知られたゑらい人々の定紋の作りかたを御傳へ致しませう。

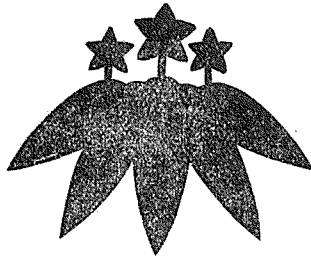
五つ折にした紙を第一圖の輪廓に依つて切ると、明智光秀の定紋の桔梗の形が出来ます。此の明智光秀といふ人は初めから悪い人ではなかつたのですが、主君織田信長を本能寺に於て亡ぼしたので、あまりよく言はれません。そこにはまたそれだけの事情もあつたのでせうが、惜しい事です。

次に二つ折の紙で第二圖を切取つてごらん下さい。これは渡邊の綱の定紋の三星に一引であります。羅生門で悪鬼の片腕を切落したといふ大變に強い人で、源頼光四天王的の一人であります。

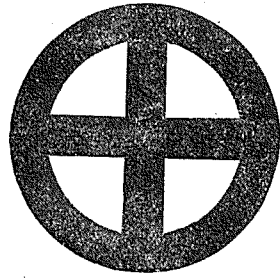
(葵ツ三に丸) 圖六第



(うどり笹) 圖五第



(わつく) 圖四第

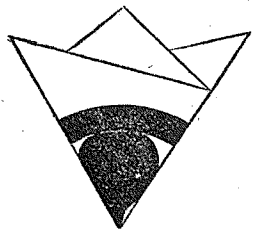


であります。四つ折の紙を第四  
 圖の通りに切抜くと、隆盛の定紋  
 が出来きます。この定紋を嚮と申  
 します。

笹りんどうの切りかたは、紙を一  
 つ折にし、第五圖の通りに、切取る  
 のです。大層美しい紋ですが是  
 は誰の紋だか御存知ですか。

是は、京都の五條橋で武藏坊辨慶  
 といふ非常に強い坊さんを降参  
 させた牛若丸後に兄さんの頼朝  
 に言付けられ、平家を平げた有名

第六圖



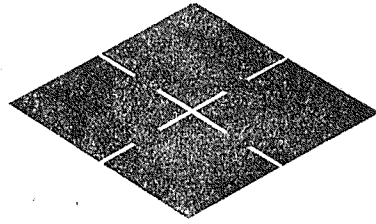
第五圖



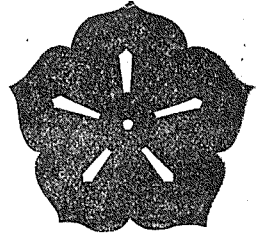
第四圖



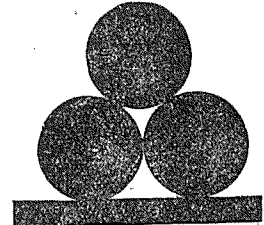
(菱田武) 圖三第



(梶桔) 圖一第



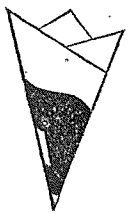
(引一に星ツ三) 圖二第



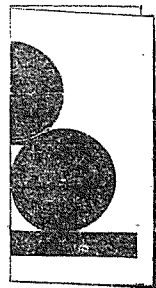
第三圖は、二つ折の紙で切るの  
 あります。是は信濃國川中島で  
 上杉謙信と戦つて、勇名を天下に  
 轟した、甲斐國の武田信玄の定紋  
 で、武田菱といふ形  
 あります。

皆さんは、東京上野公  
 園の山王臺に、犬を連  
 れた強さうな人の銅像があるの  
 を知つてゐますか。此人は日本  
 では一番最初の陸軍大將、明治十  
 年の西南戦争で有名な西郷隆盛

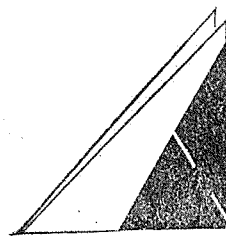
第一圖



第二圖



第三圖



な九郎判官源義經の定紋であります。

第六圖は、紙を三つ折にして切るのであります。

是は、智慧と勇氣と二つながら備へた徳川家康公の定紋であります。して、代々の徳川家は勿論家康公を祀つた社は皆、この丸に三つ葵の紋を用ひてをります。

### その六 水無月

## 青葉若葉

花咲く春はもう去つて、青葉や若葉が野も山も一色の緑に染める夏の初めになりますと、今まで池の底にかくれてゐた鯉や錦魚は時を得顔に、水面に浮び出て、投げた焼麩を争ひます、オタマジャクシはいつの間にか、手が生え、足が生え、尾がとれて、蛙となり、田浦に

聲を揃へて唄ひます。どれもこれも皆初夏の來たことを知らせ顔です。

そろ／＼暑くなるにつれて、團扇だの扇子だのも皆さんのお座敷に出て來て皆さんに可愛がられます。

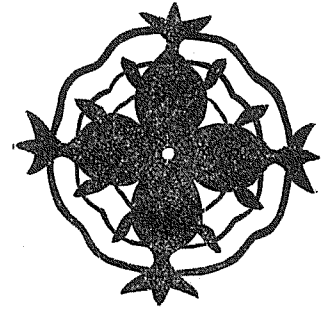
皆さんは、紙を四つ折にして、第一圖の輪廓のやうに切取つてごらん下さい。

出來上つたら、ソツと開いて御覽下さい、さあ何でせう、お解りになりますか。

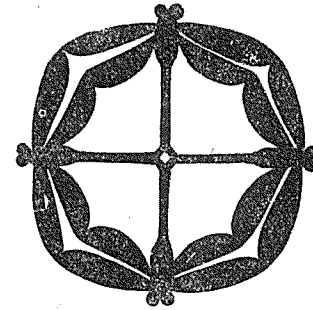
是は四尾の錦魚が一つの麩を皆で仲好くつゝき合つてゐる形です。三本の曲つた線はその水を表はしたものであります。

また、紙を四つ折にして、第二圖の通りに切取りますと、四匹の蜻蛉が輪形になつて現れます。私はこれを蜻蛉車と名づけたいと思

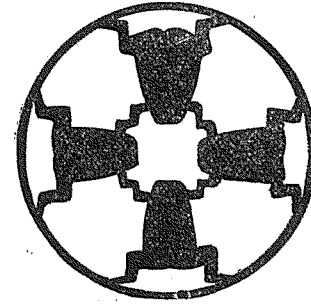
（魚 錦）圖 一 第



（車 鈴 蜻）圖 二 第



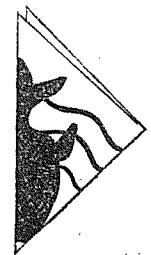
（蛙）圖 三 第



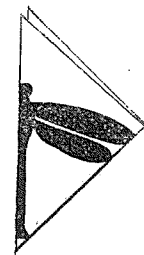
ひます。

第三圖もやはり四つ折であり  
ます。此の輪廓の通りに切取

第一圖



第二圖

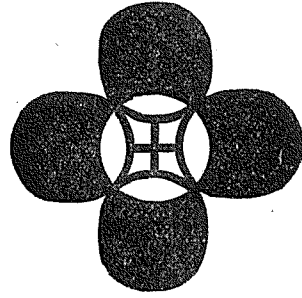


第三圖

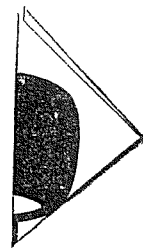


合つて、ダンスをしてゐます。  
何と皆さんおかしな踊ではあ  
りませんか。

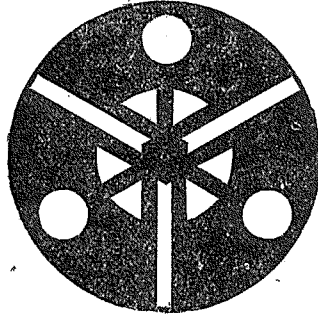
（車扇圖）圖 四 第



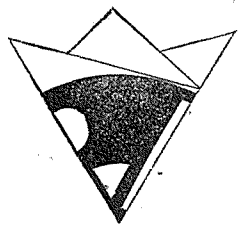
第四圖



（車扇圖 五 第



第五圖



偕て、今一度四つ折を作つて  
第四圖の通りの輪廓で切抜  
いてごらん下さい、涼しさう  
な團扇車が出来上ります。  
今度は紙を三つ折にして、第五圖の輪廓の通  
りに切取ります。すると日の丸の扇子を三  
つ組合せた扇車となります。扇車は家を建て  
る時にする棟上げのお祝ひとして、家根の棟  
木に飾るものであります。  
日本には昔から、扇子に就て  
の逸話がたくさんあります。  
中にも、源平の戦に那須與一

宗高が扇の的を射落した話などは、定めし皆さんも御承知でありませう。

昔の武士が軍に出る時は軍扇といつて、必ず鐵骨の扇子を持つたものです。

今でも扇子の使ひ道は、中々多いのでございます。勿論暑さを凌ぐためには誰でも用ひますが、其他、お目出度い儀式の時や舞を舞ふ時等は、なくてならぬ物となつてをります。扇子はまた末廣とも申します。

### その七 文 月

## たなばた祭

皆さんは七夕祭といふ催を御存じですか。

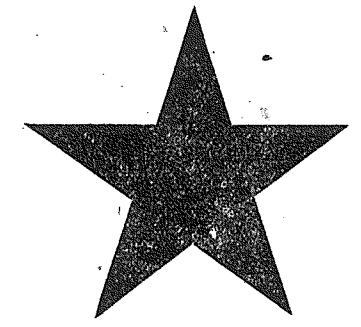
今では全くこのお祭りをしない地方もあつて、或は御存知ない方もあるのであらうと思ひますから、この祭のお話と、それに因んだキリ又キとを申し上げます。

日本では、昔から陰曆七月七日の夜乞巧奠或は七夕祭といつて、空にある織女星といふお星様を祀る習慣があります。

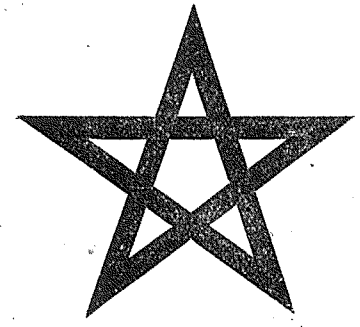
この夜は庭に机を据えて、お供物や草花を供へます。それから色紙や短冊等に願事を書いて、是を笹に結び付けて飾ります。所によつては、七夕踊といふ踊を大勢でして遊びます。

偕て紋形の中に、第一圖にあるやうな星形といふのがあります。然し、空に輝いて居るあの星が斯ういふ形をしてゐるのではありません。本當の星は圓いものですが、これは唯星とその光を一緒にしてこしらへた形であります。

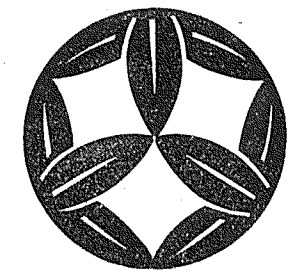
(星) 圖一第



(星び結) 圖二第



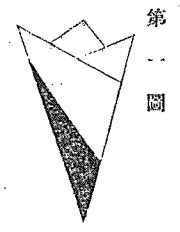
(笹枚九) 圖三第



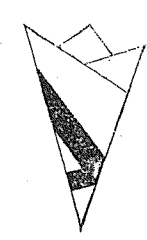
この星形は、我日本の陸軍軍人の帽子の徽章にも、肩章にも用いられてをります。肩章に付いてゐる星の數でその軍人の位が見分けられる様になつてゐます。

第一圖のやうに、一鉈で切抜けばよいので、非常に切り易いのです。しかし容易いと言つて

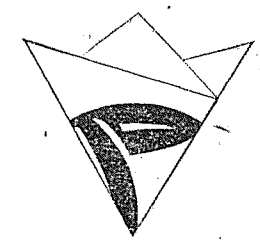
是を切抜くには紙を五つ折にし



第一圖

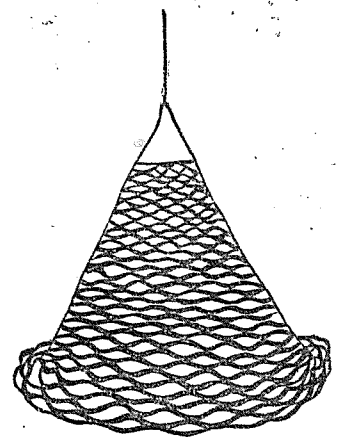


第二圖



第三圖

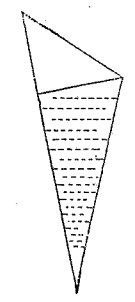
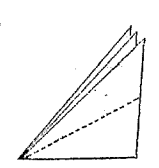
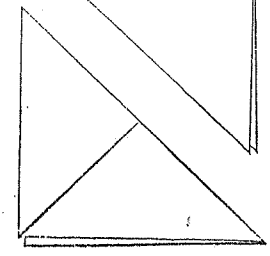
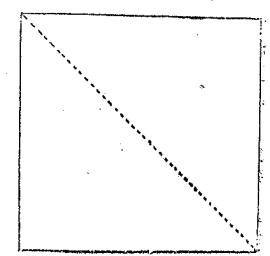
ぞんざいな切様をしてはなりません。次も星の形をしてゐるので、結び星形と名づけて置きました。又、晴明桔梗ともいひます。



是は紙を三つ折にして、第三圖の輪廓通りに切抜けばよいのですが、笹の葉の筋だけは、尖端の薄い小刀を使つた方が手際よく出來ます。

是もやはり五つ折の紙を第二圖のやうに切れば出來ます。九枚笹は、字の通り九枚の笹の葉を集めて一の紋形としたもの

圖方折目網





次に、網目といふ名をつけてあるものは、七夕祭の晩にさまざまの色紙に添へて笹の葉に結びつけるので、恰度投網のやうな形をして大層綺麗な物であります。

網を造るにはなるべく半紙か美濃紙のやうな破れ易くないものを、成るべく大きく四角に切り、夫れを折方圖の順序に依つて一三四五まで折り、點線で示してある通りに端の方を少し残して左右からたがひちがひに一鉈づゝ切り。一番下は切落してしまひます。一鉈づゝ切る時に鉈のさきで紙の端を切り落さないやうに氣を付けて下さい。切れましたらソツト開いて、紙の一番尖つたところに糸か紙撚のやうなものを通し、軽く下にこき下せば第五圖のやうな美しい網目が出来ます。

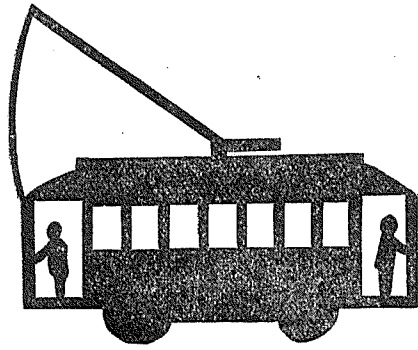
## その八 葉 月

### 夏 や す み

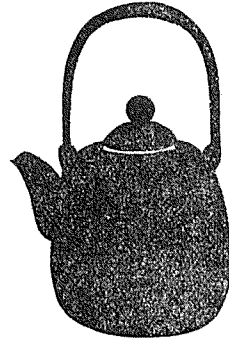
『皆さん、嚙お待兼ねでしたらうね。』とも何ともいはずに楽しい嬉しい夏休がまゐります。皆さんは此の長いお休みをどうしてお暮しになりますか。

或人は海水浴に行きます。或人は温泉に行きます。又は昆虫や植物の採集等にお出かけの方もありませう、しかし夏は何れも水に近い處で出来る遊びが一番楽しいものです。それでこゝにはおもに、水に縁のある切抜模様の事を申上げる事に致しました。偕て第一圖の輪廓の通りに、一つ折の紙を切抜きますと、二人の人が乗つてゐる釣舟の形になります。釣糸は、なるべく細くする程

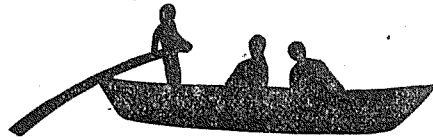
(車電) 圖五第



(鑪藥) 圖四第



(船渡) 圖六第



もの大昔からきまつて居ますけれど、そ

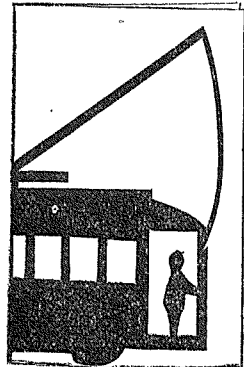
の夏は暑い冬は寒い

んよ。あつたりすると蝟にはなりませ  
さい。七本しかなくつたり、九本  
が本あります。皆さん、蝟の足は  
何本あります。数へて見て下

を第二圖の通りに切  
抜けばそれでおどけ  
た蝟さんの骨なし踊



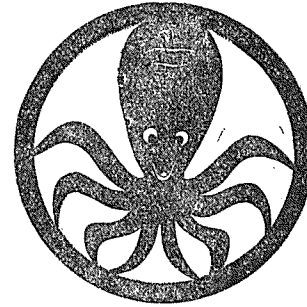
第四圖



第五圖

(三三)

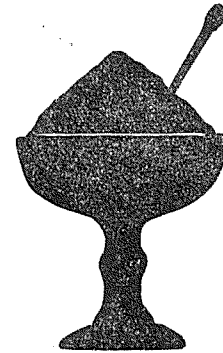
(蛸) 圖二第



(舟釣) 圖一第



(水氷) 圖三第



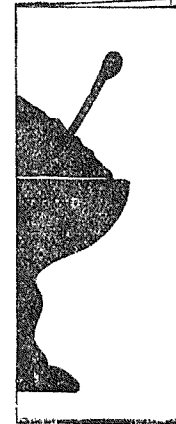
はよくあります。是は一つ折の紙  
と、蝟を捕へること  
る、圖のやうな

体裁がよろしい  
海水浴に行つた  
時汐の干く間に  
岩の間などを漁

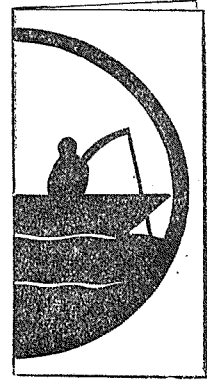
第二圖



第三圖



第一圖



(三三)

れでも八月の暑さは格別で、思はず暑いくと口に出してしまします。然し暑いからといって、むやみに氷を飲むと、身體をこはします。そこへ行くと切抜の氷ならば少しも差支へありません。却つて、たくさん切れば切る程、智慧も進み、そして手先の働らきが器用になります。一つうまく切りぬいてお父様やお母様に上げて御覽なさい。お父様やお母様は、まあどんなにお喜びになるでせう。皆さん、一つ折の紙を第三圖のやうに切つて開いてごらんなさい。おやく一杯の氷水に匙が二本ついてゐる。これではおかしいから一本は切落してしまふと、それで出来上りとなるのです。是と同じ仕方を一つ二つ申上ませう。是も一つ折の紙を第四圖の通り、白い部分を切捨て、開いて見ると前と後とに口の二つある妙な薬罐が出来ます。こんな薬罐が

ある筈はないから、口を一つ切落すと第四圖にあるやうな形となります。

もう一つは、一つ折の紙を第五圖のやうに切抜いて御覽なさい。是は餘程丁寧に取扱ひませんと破れますから、いろはかるたの文句通り念には念を入れてしづかに切取り、さて開いて見ると、これは不思議一臺の電車に、ボールが前と後と両方についてゐる。是ではどちらへ走るのやらわかりませんから、出来上りの圖をよく見て、不用なボール等を切り捨て、しまふと初めて立派な電車になります。

次は渡船ですが、是は紙を折らずに鉛筆で淡く此圖を畫いて、切抜くのであります。

その九 長月

菊の花壇

我大日本帝國の皇室の御紋章は、十六辨の菊の花であります。これは、帝國の臣民として知らない方はないでせう。

又忠臣の手本として、その名を今日までも唱はれてをる、楠公の旗印の菊水の紋もよく御承知であります。

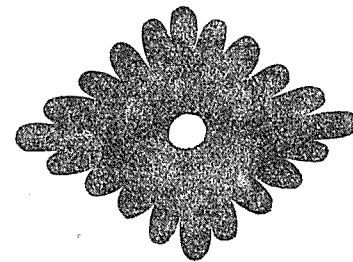
菊は、秋の霜が降る頃多くの草や木の花が枯れたり稠んだりして残り少なくなつたとき、寒さにも恐れず、美しい、氣高い花を開いてをるので、昔の人も、此の花を心の氣高い人に譬へ、蘭や、竹や、梅と、それから菊とを四つ合せて四君子と言つて居ります。

菊には種類もたくさんあり、従つて、その花の形も亦様々あります。が多くは鉢植等にして人の眼を喜ばすために養はれます。中には、食べられるものもあり、又、除蟲菊といつて、蚊を取る線香や、のみとり粉の原料に用ひられるものもあります。

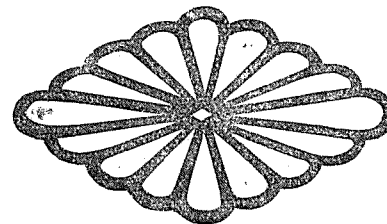
菊のことを昔から、いろ／＼に申します。も、よぐさ、まさりぐさほしみぐさ、かたみぐさ、かぎりぐさ等は皆菊の異名であります。又菊といふ名を冠つた物には、畏こくも後鳥羽天皇が御自分で、御鍛へになつたといふ、菊作りの太刀、それから御鳥羽天皇の御代に備前則宗といふ刀鍛冶が作つた菊一文字の刀があり、今日では大勳位に叙せられた人が、陛下から賜はる、菊花章の頸飾や、菊花大授章などがあります。

このやうに、高貴の物にばかり用ひられる花は、菊の他には甚だ少ないでせう。

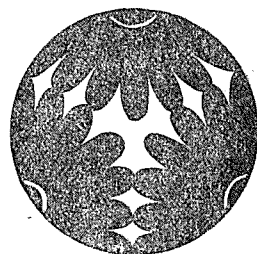
菊影 圖一第



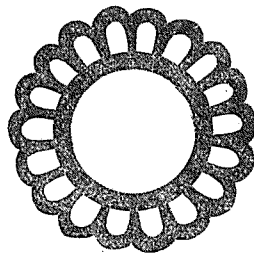
菱菊影 圖二第



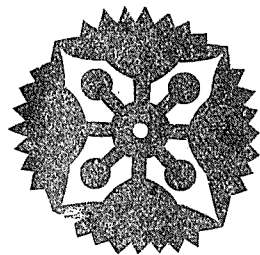
菊割ツ三 圖四第



環菊 圖五第

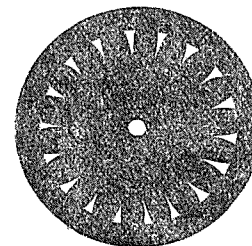


菊ツ四 圖六第



菊に縁の深い紋形も、たくさんあり  
ますが、其中で昔から人々に持  
てはやされたもののキリヌキを  
作つて見ませう。

菊に丸 圖三第

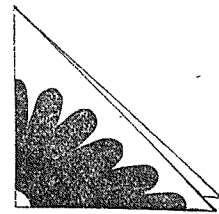


廓のやうに二つ折の紙を切取ればよいのです。  
影菊菱も、やはり菊の花でありま  
すが、同じ細さのところばかりで

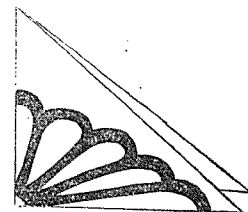
最初の菊菱は、菊の花を菱形模様にしたもので、これは第一圖の輪

(四〇)

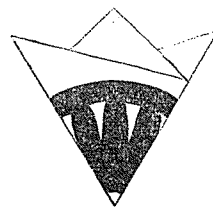
第一圖



第二圖

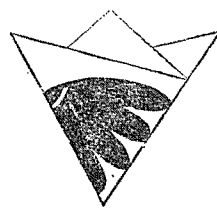


第三圖



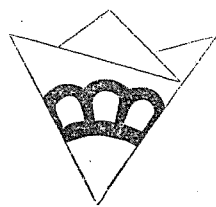
繋つてゐるので、ちと切りにくい紋  
ですから、よくおちついて切らねば  
なりません。二つ折の紙を第二圖  
のやうに切抜いて御覽なさい。

第四圖



次の第三圖第四圖第五圖を皆三つ  
折にして切抜くと、丸に菊、三つ割菊  
菊輪等になるのですが、何圖を切つ  
たら何の紋になるか。皆さんが切  
抜いてから楽しみに比べてござら  
なさい。

第五圖



第六圖



第六圖は、四つ折にして切るの  
は、四輪の開いた菊の花と、四輪の蕾

(四一)

とが集つて、一の圓い形になつてゐる、四つ菊の紋形が出来ます。第二圖第三圖第五圖はいづれも、中を切抜く所があつて、鋏では切り損ない易いから、さういふ場所だけは、先の切れる小刀で切取つた方がよいのです。

## その十 神無月

### 秋の木の葉

空が高く澄んで、野を見ても山を見てもはつきり見えます。もう秋の半ばです。

學校で遠足や運動會を催すのも此時です。茸狩紅葉狩栗拾ひなどの山遊びも此時です。善く勉強して善く遊ぶによい時が來たのです。皆さんはふだんによく勉強なされたから、さあ、充分にお

遊びなさい。

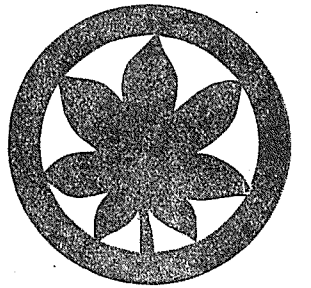
秋になつて、先づ皆さんの眼につくものは何でせう。それはさまざま、な木の葉の色が美しく變つて行くことです。中にも最も美しいのは紅葉と銀杏でせう。こゝには此の二つの木の葉を切り抜いて見ませう。

一つ折の紙を第一圖の輪廓の通りに切抜いてごらんなさい。丸にもみちといふ紋形が出来ます。これは餘程注意して切らないと紅葉の葉のさきと丸とが離れ、くになりまますから氣を付けて下さい。

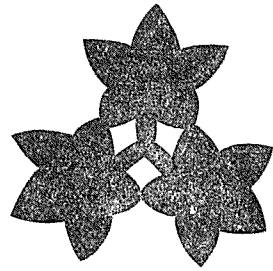
次は三つ折の紙を、第二圖に依つて、切りぬきますと、三つもみちの紋形が出来ます。

今度は紙を五つ折にして第三圖のやうに切取つて開いてごらん

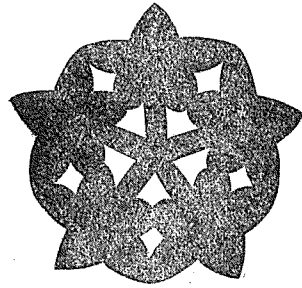
(楓に丸) 圖一第



(楓ツ三) 圖二第



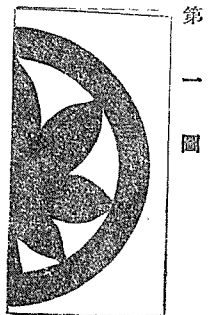
(楓ツ五) 圖三第



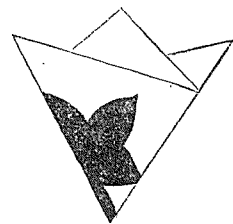
なさい。さあ何が出來たでせ第一圖  
う。これは五つもみちといふ  
紋形です。どうです美しいで  
せう。

以上の第一第二第三圖は共に  
形二三異つては居りますけれ  
どそれも皆楓の葉を紋形にし  
たものであります。

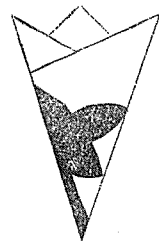
楓は十月頃から一様に緑の葉  
が美しい紅色に變り初めます  
ので昔から春の櫻のやうに眼  
を樂しませるために養ひまし



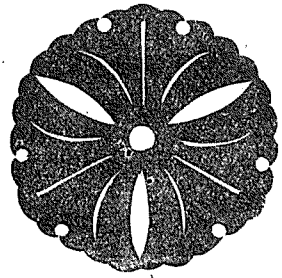
第二圖



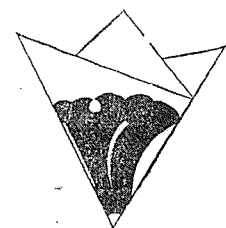
第三圖



(杏銀ツ三) 圖四第



た。又た紅葉狩と云つて楓のい  
山に行つて、一日を遊び暮しま  
す。

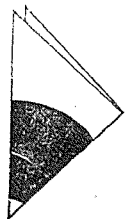
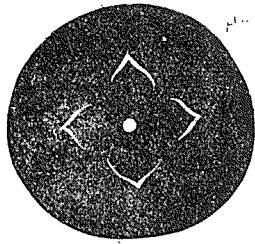


第四圖

楓の名所は少くありませんが中  
でも東京の瀧野川武藏の高尾山下野の日光等  
は古くから有名であります。

さて第四圖の通りに三つ折の紙を切抜きます  
と三つ銀杏の紋形になります。紅葉は文字の  
通り葉が紅くなるのですか銀杏  
の葉は秋になるとその葉の緑が  
だんぐさめて美しい黄金色に  
變ります。

(柿) 圖五第



第五圖

皆さんは日本で一番名高い銀杏の木のある所を知つてゐらつしやいますか。

夫れは鎌倉にありますが、鐵道唱歌を歌つて御覽なさい。『八幡宮の石段に、立てる一木の大銀杏、別當公曉のかくれしと、歴史にあるは此蔭よ』といふ一節があるでせう。

かの源頼家の子の別當公曉がこの大銀杏の蔭にかくれて居て八幡宮の石段を降りて來る源實朝公を斬つたので歴史の上に名が高いのであります。

第五圖を四つ折の紙で切取りますと柿を裏の方から見つた形となります。

## その十一 霜 月

### 七五三の祝

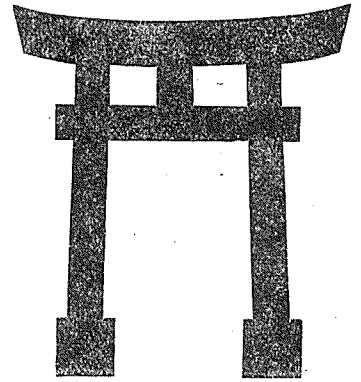
この月の十五日に男の子は三歳か五歳、女の子は三歳か七歳になった者が新しい晴衣を着て、土地の氏神様にお詣りを致します。是を七五三の祝と申します。

又二十三日には民間から献上した新しいお米を 天皇陛下御親ら諸神に供へられ且つ御親しく是をお召上りになります。その御儀式が即ち新嘗祭であります。昔は日を定めずに陰曆十一月中の卯の日に此の儀式を行はせられました。

七五三のお祝ひには先づ氏神様へお詣りをいたします。そこで第一に鳥居をきりぬきませう。これは一つ折の紙を第一圖の輪廓のやうに切ればそれで鳥居が出来ます。

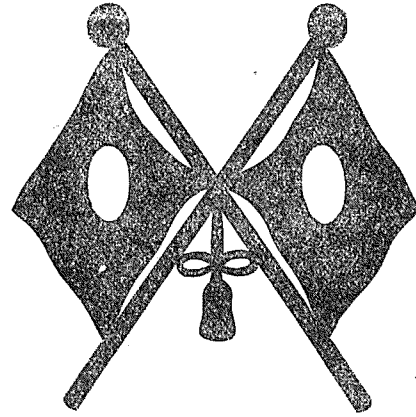


（居鳥）圖一第



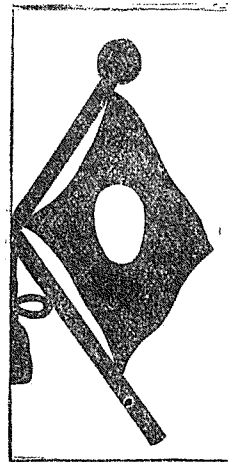
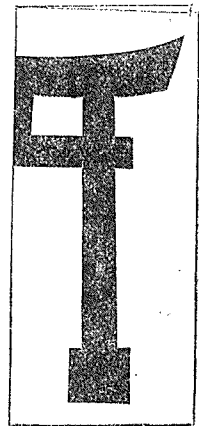
第一圖

（旗國）圖二第

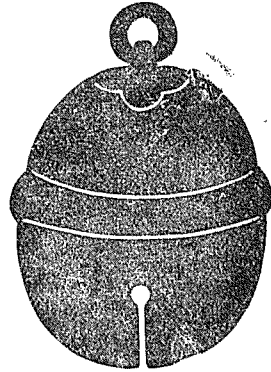


第二圖

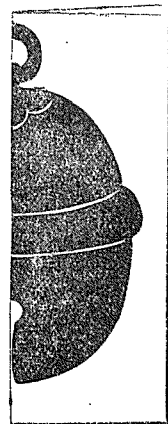
次は右三つ  
 巴と左三つ  
 巴とであり  
 ます。是等  
 は紙を折つ  
 て切抜く事は出来ません。どうしても  
 一枚の紙のまゝ、此圖を畫いて切取るよ  
 り他に方法  
 はございま  
 せん。です  
 から右三つ  
 巴を拵へや



（鈴）圖三第

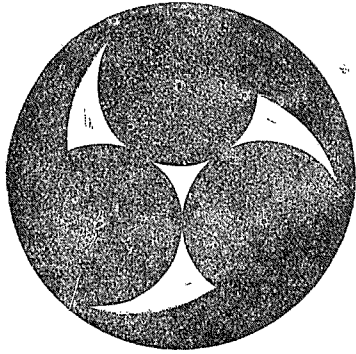


第三圖

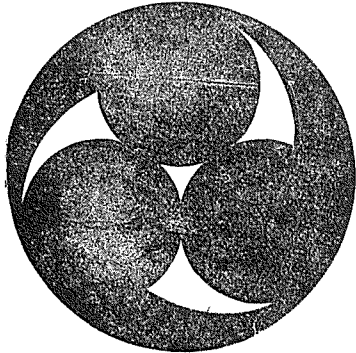


なり是と同じに左の時  
 紙の表へ畫きますと折角出来上つた紋に下書が見えて醜くなり  
 うとする時は紙の裏へ左三つ巴の輪廓を畫いて切取ると表は右三つ巴と

（巴三右）



（巴三左）



ますからそれで反對の形を裏へ畫く事になるのです。巴の紋がよく神社の紋になつてゐるのを見る事があるでせう。

巴の紋形はどうして出来たか。これは水が渦巻いてあるときの形を模様にしたもので、それ「巴」と云ふ字を頭の方で集めると巴の形になるでせう。で其巴の數に依つて一つならば一つ巴二つならば二つ巴三つならば三つ巴と言ひます。瓦にもよく此紋がついて居ます。それは巴瓦と申しまして火除の禁呪から起つた物ださうです。水の形からとつた紋だからでせう。

次は日章旗の交叉であります。日本國民は三大節祝日大祭日等には必ず國旗を家の外に掲げて御祝をすべきものです。此の切抜は一つ折の紙を第二圖のやうに切抜けばよいのですが旗竿の曲らないやうにそれから丸の歪まないやうに注意をなさい。

神社の拜殿の前には大きな鈴が下つてゐます。ついでにそれも切り抜きませう。それは第三圖に依つて一つ折の紙を切抜くと

容易く出来ます。

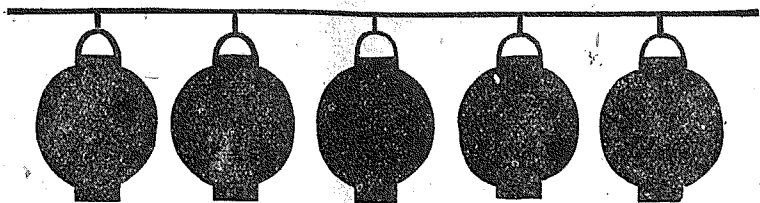
## その十二 師 走

### 初 雪

寒い北風が吹いて空がドンヨリと灰色に曇つて來るとチラチラと雪が降つて來ます。皆さんは其の降る雪を黒い布の上に受けてそれを虫眼鏡でよく見て御覽なさい。すると雪が規則正しく美しい形をしてゐる事がお解りになります。

雪が唯無雜作に綿をちぎつたやうに或は紙切を刻んだやうに降るものと思ふと大きな間違ひでありまして皆夫々種々の形はしてゐますが全體からいへば皆一樣に六邊形から出来た紋形をしてゐます。ですから昔から雪のことを六つの花とも申します。

(ぎ 繫 灯 提) 圖 四 第

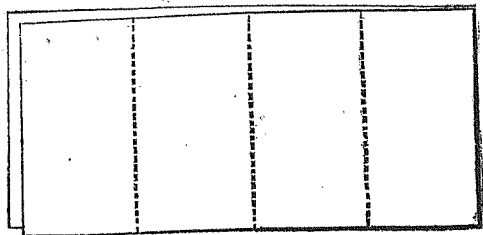


てゐるので餘程注意をしないと切落してしまいます。切取つてしまつたら氣をつけて破らない様にそつと開いてごらん下さい。

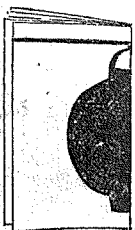
雪の形をした二つの輪が並んでゐるものが出来たでせう。是は雪輪違ひといふ紋であります。

次に第三圖を一つ折の紙で切取つて見ませう。是れも細いところがあつておまけに端の方から鋏を入れることが出来ない。斯う云ふ所は平らな板の上に置いて尖端の薄い

第四圖

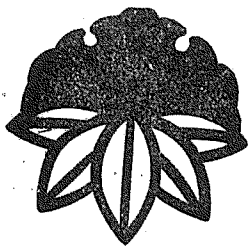


第五圖

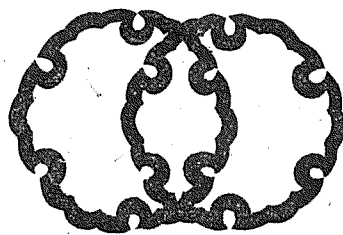


(五三)

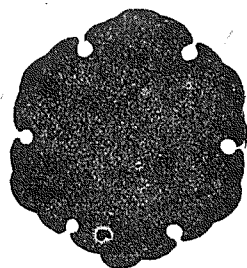
(笹り積雪) 圖三第



(ひ連環雪) 圖二第



(雪) 圖一第



雪を紋形にして表はすには先づ紙を三つ折にして是を第一圖の通りの輪廓で切抜くのであります。

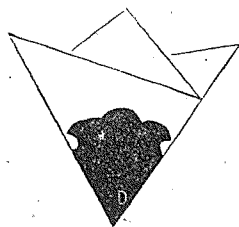
然し是は雪が必ず斯ういふ形をしてゐるといふのではなくて種々異つた形の雪を表すために考へ出した一つの紋形であります。

て是を雪形と名づけてをります。次に四つ折の紙を第二圖の通りに切抜いてごらん下さい。

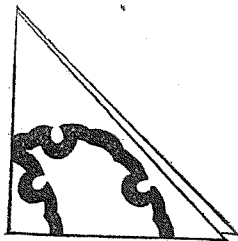
是は細いところばかりで繋がつ

(五二)

第一圖



第二圖



第三



小刀で切るのが一番よいのです。出来ましたか。出来ましたらば開いて見ませう。

おやく上の半分だけは雪があつて下は笹の葉になつてゐます。是は雪積り笹といつて笹の葉に雪が積つてゐる形の紋形であります。此の紋形をまた笹の雪とも申します。

最後に「繋ぎ提灯」の切りかたをお傳へしませう。これはクリスマスだの忘年会だのお正月のお飾などに柱や鴨居へかけわたしますとまるで軍艦の満艦飾のやうに美しく見えます。

是は細長い紙を第四圖の點線のやうに折り其れに第五圖の輪廓を畫いて切抜くと一本の紐に澤山の提灯を釣るしてある形が出来上ります。

切抜遊戯の種はまだ此の外に澤山ありますが此のたびは是でお

さらばに致します。尙此本にのつて居ないので面白い奇抜な切

抜が別に ガモンキリヌキ花の巻 ガモンキリヌキ月の巻 ガモンキリヌキ

雪の巻及 ガモンキリヌキ細工等にいろいろ載せて置きました。これ

等の本を合せてお讀になればまだ著者の氣がつかないやうな美事な紋形を皆さんが新しく發明する事も出来るでせう。

さらば皆さん。仲好くそしておとなしく楽しくお遊びなさい。

## キリヌキ十二月終

切抜二十ヶ月を御覧に方たつな  
是非共御勸いたしめ御の工手おの本

次目刊

小學校手工科 (全部各册彩色極美本)  
家庭參考用書 (十二册各册彩色極美本)  
定價 各册 金拾八錢 郵税金貳錢ツ、

縫 お細工もの 紐結び	キリ 取糊付細工	キリ 棒并へ豆細工	アツガ みサイク	カミ ヲリモノ	キリ 又キ	チエ ノイロイタ	キリ 又キ	花の 巻
			近刊	既刊	既刊	既刊	既刊	既刊
			行發、ツ册二					

大正四年四月十六日印刷  
大正四年四月十九日發行

切抜二十ヶ月與付  
著作權所有  
定價金拾五錢

著者 鈴木江南  
發行者 增田秀吉  
印刷所 東京市芝區田村町七番地  
印刷所 東京市芝區田村町七番地  
東京市芝區田村町三丁目一番  
上村龍之助  
東京市芝區田村町三丁目一番  
信堂

發行所 東京市芝區田村町七番地  
發賣所 東京市芝區田村町七番地  
長久社  
振替東京 (貳七六八番)

謹告  
本書記載事項へ多年ノ經驗ト實地トニヨリ新案セシモノ等  
ヲモ併セテ記載仕候ニ付御不審ノ點モ候ハ、御照會(返信  
料添)ヲ得ハ即時御回答可仕候  
東京市芝區田村町七番地長久社内 著者 鈴木江南

9925-9